

<p>【児童の実態】 ○明るく素直な児童が多く、意欲的に学習に取り組むことができる。 ○自分からあいさつをしたり、ありがとうの言葉を伝えたりすることができる児童が多い。 △学ぶことに興味・関心はもっているものの、やや受け身であり、積極的に学ぶ姿勢が弱い。 △相手にどう伝わるのかが不安で、自分の考えや思いを、強く発信するのが苦手である。</p>	<p>【学校の教育目標】 せい いっぱい きた え のび よう 東っ子 【目指す学校像】 自分を出し切り 「笑顔いっぱい为学校」 【合い言葉】 「出し切る」「見つめる」 子どもたちが安心して 自分をのびのびと出し切り 自分に自信をもち 可能性をのばす 自己充実感 自己肯定感 自己有用感</p>	<p>【東白川村教育目標】 村を愛し、よりよい生涯と社会を築くために、心豊かにたくましく生きる人間性の育成 【教育方針】 ○活動の基本方針 ポストコロナ時代における新たな生活様式を取り入れた教育活動の推進 しっかり学び しっかり育つ 元気な小中学校教育の推進</p>
---	---	---

<p>【めざす児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら疑問をもち、見通しをもって主体的に学習することができる ・他者の気付きを得ながら、自分と他者の意見や考え方を比較し、広げ、深めることができる ・これまでの学びを振り返り、次の学習につなげることができる ・思考力・判断力・表現力を高め、新たな挑戦に、積極的に取り組むことができる
--

<p>【研究主題】</p> <p>主体的・対話的に学び合い、自分の考えを進んで表現できる児童の育成 ～学ぶ楽しさを実感できる授業づくり～</p>
--

<p>【研究仮説】 児童が自ら疑問をもって学ぶようになれば、主体的に学習するようになる。そのためには、児童の「なぜ?」「どうして?」といった「問い」を大切にしながら、深い学びにつながる発問をしたり、児童が挑戦したくなるような問題を出したり、解決への見通しがもてたりすれば、自ら解決に向かってとことん追究していくことができると考える。 また、児童が「対話は楽しい」と感じるようになれば、自然と対話をするようになる。そのためには、児童が「もっと知りたい」「調べたい」「考えを伝えたい」という願いをもって授業に臨むことが大切であり、そのためのテーマや学習形態を工夫したり、児童どうしの会話がつながる授業を展開したりしていけば、より自信をもって表現できることにつながると考える。</p>
--

<p>【研究内容1】主体的な学びができるための指導の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の「なぜ?」「どうして?」などの問いを大切にする授業の工夫 (2) 問題解決への見通しがもてる授業の工夫 (3) 児童が挑戦したくなったり、深い学びにつながったりする発問の工夫 <p>【研究内容2】対話的な学びができるための指導の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 対話が楽しいと思える授業の工夫(児童どうしの会話につながり、展開される授業) (2) 児童が対話したくなうようなテーマの工夫(提示・課題づくり・実体験とのつながり等) (3) 本時に付けたい力に合わせた学習形態の工夫(ペア・トリオ・テーマ別・一斉等)
--